

10月11日福井；「山小屋管理について提案」を予定しており、その前に

{山小屋のPRの話}を5分程度して欲しい。

平成18年10月20日

御覧のとおり、山小屋は昭和37年12月9日に竣工しました。代々の先輩後輩の皆様が受け継いで維持管理して頂いたおかげで、多くの人に今もって活用して頂いています。

平成4年12月6日、平成14年12月8日に30周年、40周年記念の集いを山小屋で開催してきました。40周年の時に改修工事の話が持ち上がり、平成15年春には100万円強の資金でハイカラな山小屋にリニューアルデビューしています。

この40周年記念の集いでは、今一つ、「山小屋特集号の漂雲を発行しよう。」と言う話が提案されましたが、日の目を見るまでには至っていません。

一方、今回、「RUWV50周年記念の集い」の開催に至った陰の力として、53年卒OB畑中 健君の「インターネット掲示板“漂雲”のRUWV/OBのページ」と言うのがあり、2003年6月19日超OB森村征男さんの呼びかけ、同じく、永辻さん、打越さん等から山小屋で聞いたと、後輩の吉村岩男、山本達郎、木下正樹君等が同掲示板で再々書き込み案内してくれました。

更には、本年2月26日この「記念の集いの第一回打ち合せ会議」以降、記念品の検討の際に、「漂雲特集号の発行・配布(案)」が有りましたが、印刷・出版となると①原稿募集、②編集、③デザイン、④印刷・製本、⑤配布等時間、労力と費用が嵩み、記念集会事業と併行して行うことは困難であって、本日配布することが無理となり、さりとて、山小屋50周年記念の平成24年12月まで延期する場合、建設従事者が還暦を過ぎた人ばかりということからも、実現が危ぶまれます。

そこで、本日OB会員数500~600人中の228人もの多数が集まるOB会総会で提案して、この1年間(半年間)RUWV山小屋特集号の漂雲に載せる原稿を募集し、畑中君のインターネット漂雲RUWV/OBの掲示板に掲載していこうと考えています。インターネットをご覧になれない方は、私なり、皆さんの同期のIT利用者に原稿を送っていただければ、順次掲載していきます。

その結果、各テーブルで今ご覧のような「暫定版山小屋特集の漂雲」を更に充実したものを作成することができます。資金と労力が不足だというならば、41年卒業の松久昌司君にお願いして、これらの原稿を編集し、インターネットの「電子出版」も可能です。

これを成功させるキーポイントは、①山小屋を建設した時の苦労話、②後々引き継ぎ維持管理してくれた人達の声、③更には、小屋を利用した人たちの感想等の原稿が沢山集まることが大切です。

山小屋建設時1回生だった松久君の41年卒16人中の4人が既に他界しています。近年では思わぬ若年者が他界するケースを見聞きしています。

皆さん、私たちが生きている間にRUWV/OB/OGの力を結集して、「山小屋特集の漂雲の発行」を成功させようではありませんか。